

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177600251		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム笑顔の村三番地		
所在地	石狩市花川南7条3丁目42番地 (電話) 0133-72-6030		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月23日	評価確定日	平成19年8月22日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月21日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,600円	円	その他の経費(月額)	59,000	円	
敷金	無					
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	300	円	昼食	400	円
	夕食	400	円	おやつ	100	円
	または1日当たり		円			

### (4) 利用者の概要 (7月23日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名	
要介護1	3	要介護2	1			
要介護3	2	要介護4	1			
要介護5	1	要支援2				
年齢	平均	84.7歳	最低	71歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	花川病院、みき内科クリニック、ラビット歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

内科クリニックの二階にあり、建物は一般住宅を改修したものである。室内リビングは広くはないが、家庭的雰囲気がある。部屋の段差もそのままのところがあり、それが、利用者にとっては生活リハビリとなっている。そのため開設以来、転倒による事故はない。建物の構造上、死角も多いため、職員が見守り意識を高め、常に連携に気を配っているためでもあると言える。連携という点においては、法人本部や関連グループホームと、会議や行事等で交流があり、利用者へのサービスの質の向上に努めている。また一階がクリニックであるため、医療との連携も十分に取れている。職員の利用者に対する対応はゆったりとしており、利用者の表情も、穏やかである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善事項①契約書などに権利義務の明文化②リビングでのテレビ及び食卓の配置換え③継続性のある研修受講の円滑化の各項目について改善されている。また、バリアフリーへの対応については、この夏にも改修の計画で、外部評価への取り組みは順調に進められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回、自己評価をするにあたっては、職員で評価項目を分担して取り組み状況について確認しあっている。また、職員全体で評価を前向きに活用していく姿勢で話し合い、今後の取り組みについて検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	第一回目の運営推進会議では、ホームの概要やこれまでの取り組みを中心に進められたが、2回目以降は、行事報告だけではなく、今後のサービスの質の向上のため、外部評価の結果報告や防災対策について話し合っている。参加者の地域住民代表の方や、区の担当職員から、地域との連携の進め方に関する意見が出され、今後の運営に積極的に活かそうとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には気軽に意見や要望を出してもらえるように、「意見箱」を設置しているが、それ以上に来所時に利用者の情報を提供し、何でも話をしてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。利用者の様子については、「ホーム便り」を月一回発行しているほか、ホームページを作成して、家族であれば、閲覧できるようにしている。遠方のため、頻りに面会に来れない家族からはとても好評である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、盆踊りや敬老会など、町内会行事へ積極的に参加し、利用者と地域住民との交流を心掛けている。運営推進会議の中で、地域住民代表の方から、「町内の人々がホーム行事へも参加できるようにしてはどうか」という意見が出され、今後の取り組みとして検討が始まっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としては、地域の中で利用者が社会性をなくすことなく、今ある能力を最大限活かせるように支えていくことを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の管理者会議や職員ミーティング、日々の申し送り等で話し合い、確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、盆踊りや敬老会等、町内会行事へ参加し、町内の人たちとの交流を図っている。また開設当初から、買物はホーム近くの商店を利用しているため、店の人たちとも顔なじみとなっている。	○	町内会行事への積極的な参加により、利用者は地域の人たちとの交流が保たれている。今後も、こうした活動の継続と、なお一層ホームの行事へも、地域の方が気軽に参加できる取り組みが続けられることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は運営推進会議で報告し、職員全体で改善に向けた取り組みを行っている。今回、自己評価をするにあたっては、職員で評価項目を分担して検討し、その後、ホーム全体の話し合いで自己評価を完成させている。		

石狩市 グループホーム 笑顔の村三番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、これまで行事報告のほか、利用者の地域参加、防災対策について協議が行なわれ、さらに前回の外部評価結果などを報告し、参加者の意見を得て、今後、取り組むべき検討材料としている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、入居相談や介護保険法上のこと等で、よく連絡を取り合っており、顔なじみとなっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は面会時の報告のほか、毎月「ホーム便り」を発行している。金銭管理報告は小遣い帳と領収書のコピーを同封し郵送している。またホームの様子はホームページを作成し、利用者家族であれば、閲覧できるようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置をしているが、家族の訪問時に、気軽に意見を言ってもらえるように雰囲気作りを心掛けている。提出された意見に対しては、職員全体で話し合いを行なうなど運営に活かすべく取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に関連グループホーム間での異動はない。利用者との馴染みの関係を大切にしている。新しい職員が入った時は、必ず利用者へ紹介を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は受講したい研修へ行くことができ、受けた研修は後日レポート報告をし、ミーティングでほかの職員へ伝え共有を図っている。また、個人で受講した研修結果もホーム全体のケアサービスの向上に活かされている。	○	研修は職員のスキルアップとなり、利用者へのサービスの質の向上へとつながるものである。そのため今後も全職員が研修へ参加できるよう、年間計画へ盛り込むなどし、また自主的に行きたい研修に関して、ホームとしてバックアップができるよう支援体制の維持を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で行なわれる管理者会議や研修会に管理者や職員を随時派遣し、参加者とのネットワークづくりに励んでいる。また市内のほかのグループホームの行事へ参加することがあり、自分たちのサービスについて振り返る機会を得ている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族との連絡、相談を密にし、入居前には必ず訪問面接に出向いている。さらにホームの雰囲気を知ってもらうため、2回以上は見学をしてもらうなど、徐々に馴染めるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、年長者を敬うという当たり前の気持ちを持って、日々の行動をともにすることをしている。調理の仕方やボタン付けなど裁縫については、得意な利用者から職員が教えてもらうことをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを実施し、本人がほかの利用者と話す事柄を聞いていたり、観察を通して思いを知ろうとしている。また家族から話を聞くことも多い。さらに本人の昔の写真を見ながら会話し、思いを知ろうと努めることもある。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、新しい入居者に対しては2週間の暫定プランを立てて様子を見、その結果をみながら新たなプランを立てている。その後、担当者がプランを作成し、最終的にはケアマネジャーや管理者、職員全体で話し合って作成しているが、事前に家族や本人から、希望や要望を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しの期間は3ヶ月をスパンとして行なわれているが、期間の定めに限らず、本人の状況変化に応じては随時、見直しを行ない、現状に即したプランにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望や要望に従って、医療受診支援のほか、理美容や墓参りの付き添いなど、家族ができない時は職員が臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度、提携のクリニック医師が訪問診療をしているが、それに限らず、家族等の要望に応じて、これまでの掛り付け医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針について、書類を入居時に説明して渡しているが、署名の取り交わしまでには至っていない。その後も将来の対応について繰り返し話し合いをしてはいるが、必要な状況であれば今後の方針について医師や家族と話し合いを行なう体制は取られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症であっても、人生の先輩として人格を尊重し接することを心掛けている。外部に情報を伝えねばならない時は、家族の同意をもらっている。またホームページで利用者の様子を伝えているが、パスワードの設定により、閲覧できるのは家族のみ可能であるという配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体で一日が終わるのではなく、本人主体で、本人の楽しみごとを大事にした日々の暮らしを支援している。		

石狩市 グループホーム 笑顔の村三番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者と一緒に献立を考え、一緒に買物をし、利用者の力量に応じて、調理の準備や後片付けに参加している。また職員も利用者と会話を楽しみながら、一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特定の入浴日や時間の定めはない。毎日、入りたいときに入れるようにしている。現在はないが、夜間の入浴を希望する利用者の対応も可能である。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力量に応じて、家事に参加をしてもらっているほか、裁縫の得意な利用者にはボタン付けを、生花の心得のある利用者には、花を生けてもらうなど、得意なことを生かしてもらうなど自立に向けた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごすことがないように、日常的に散歩に出ているほか、月一回、花見や果物狩りなど外出行事を行なっている。また、一人でも、行きたいところがある時には、行けるよう支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝の8時から、夜8時ごろまで鍵を掛けない。日中、鍵を掛けずにすむように、外出を気づくために玄関ドアの上に鈴をつけているが、職員同士で連携し、気をつけて見守りをしている。		

石狩市 グループホーム 笑顔の村三番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春と秋の年に2回、避難訓練を実施し、救急救命のマニュアルや緊急時連絡網の作成をしている。点検済みの消火器や、水、食料、薬品などの備えもある。運営推進会議を得て、地域の住民へ緊急の際の利用者の介助を依頼できる体制となっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は一人ひとりの表を付けて把握し、献立内容は調理師にカロリーを確認してもらい、栄養バランスの摂れた食事となるようにしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気になる音や光はない。広いとはいえない共用空間だが玄関に装飾品を置いたり、壁に写真や利用者の書道作品をを掲示するなど工夫して、居心地のよい共用空間となるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れたタンスやカーペットがあり、本人好みの小物が飾られているなど、本人が居心地よく過ごせるような工夫がしてある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。